

# 営農情報（大豆）

平成30年8月

（大豆営農情報 8月号）

J A福岡大城・南筑後普及指導センター

## 1 大豆の生育概況

播種は、7月14～16日頃を中心に行われ、7月20日頃までには概ね終了しました。梅雨明け後の乾燥により出芽不良や出芽のばらつきが多くみられます。

7月14日頃に播種されたほ場では、現在本葉3葉～4葉期となっています。

## 2 病害虫防除

ハスモンヨトウの発生は平年よりやや多く、降雨も少ないことから被害が大きくなる恐れがあります。

特に開花期（8月下旬～9月上旬頃）に食害を受けると、収量が低下しますので、下記の時期を目安に防除を実施して下さい。

【1回目防除】 8月15日～18日頃

※播種、出芽が早い圃場ではハスモンヨトウの発生、食害が早まりますので、上記の時期より散布適期が早まります。早めに防除を行ってください。

※今後、高温が続くとハスモンヨトウの成長も早まりますので、食害による白変葉の発生や幼虫体長（2cm位までが適期）を確認して早めに防除を行ってください。

対象病害虫	薬剤名	希釈倍率	使用回数	1000あたり 薬剤量
ハスモンヨトウ	プレオフロアブル	1000～2000倍	2回以内	50ml～100ml

※【散布量】 10a当たり 100～300ℓ

（散布量は、大豆の生育状況に応じて調節します。じっくりかけて下さい）

【2回目防除】 9月中旬（ハスモンヨトウ、カメムシ、紫斑病対策）

対象病害虫	薬剤名	希釈倍率	使用回数	1000あたり 薬剤量
ハスモンヨトウ	プレハソフロアブル5	4000倍	2回以内	25ml
カメムシ類	キラップフロアブル	2000倍	2回以内	50ml
紫斑病	トップジンM水和剤	1000～ 1500倍	4回以内	70～ 100ml

※【散布量】 10a当たり 100～300ℓ

**農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょう！**